

プライム上場企業を中心に設定する企業が多い一方で、サプライチェーン（供給網）全体での脱炭素への取り組みが進む。国際的な温室効果ガス排出量の算定・報告の基準であるGHGプロトコルでは、二酸化炭素（CO₂）排出量を自社内での活動によるスコープ1

（燃料）とスコープ2（電力）、サプライチェーンの上下流での排出のスコープ3の区分で示している。

自社内で対応可能なスコープ1、2の削減目標のみ

を決定する企業が多い一方、ESG投資の評価基準の一つである国際的なニシアチブ「SBT（科学的根拠に基づく目標）」は、

標設定を要請している。そのため、スコープ3削減に向けて脱炭素に積極的な上場企業はサプライヤーと協力し、CO₂低減活動に乗り出している。

サプライヤー側に求められる排出低減に向けた活動ステップとして、①排出量の可視化②削減目標の設定

顧客サービスとしての排出削減

ものづくり×脱炭素

③削減施策の実行の三つが挙げられる。

①では燃料・電力消費量からスコープ1、2に該当するCO₂排出量を算定する。一般的に企業単位での年間排出量の把握に留まる

が、一歩進んだ取り組みとして、顧客となる企業がサプライチェーンにおける排出量（カーボンフットプリント）算定に用いる製品・サービスごとの情報の可視化がある。例えば製造業では、購入部品の総重量にC

①では燃料・電力消費量からスコープ1、2に該当するCO₂排出量を算定する。一般的に企業単位での年間排出量の把握に留まる

②は、製品の重量当たりの排出量（重量当たり排出量）を算定し、購入した部品の排出量を算定する。設定した削減目標の達成に向けて③削減施策を実行する。施策

③削減施策の実行の三つが挙げられる。

①で算定したCO₂排出量を基準に、②の中期排出量削減目標を設定する。設定した削減目標の達成に向けて③削減施策を実行する。施策

④で算定したCO₂排出量を基準に、②の中期排出量削減目標を設定する。設定した削減目標の達成に向けて③削減施策を実行する。施策

⑤で算定したCO₂排出量を基準に、②の中期排出量削減目標を設定する。設定した削減目標の達成に向けて③削減施策を実行する。施策

森 雅典（もり・まさのり）
コンサルティング事業本部サステナビリティー戦略部コンサルタント



⑥で算定したCO₂排出量を基準に、②の中期排出量削減目標を設定する。設定した削減目標の達成に向けて③削減施策を実行する。施策

環境配慮はかつてCSRの文脈でコストと位置付けられてきたが、今や上場企業の事業継続に欠かせない要素となった。非上場企業においてもこの潮流をチャンスと捉え、顧客サービス強化の一環として排出削減に取り組むことが、脱炭素を目指す社会において重要である。

（毎週木曜日に掲載）

